2018年(平成30年)3月8日(木曜日)　讀賣新聞

被災地のろう者 映像に

聴覚障害持つ今村監督

高齢5人の生活や苦労

震災7年

豊川などで11日上映

生まれつき耳が不自由な映像監督今村彩子さん(38)(名古屋市緑区)が、東日本大震災で被災した宮城県の高齢のろう者5人を取り上げたドキュメンタリー映像を完成させた。11日に豊川市などで上映する。今村さんは「震災で痛手を受けた高齢のろう者が、自分なりの方法でコミュニケーションをとって、人とのつながりを大切にしている姿を見てほしい」と話している。(倉橋章)

取材する今村さん(左)＝今村さん提供

監督の今村彩子さん

今村さんは愛知教育大学在籍中、アメリカに留学して映像制作を学び、これまで聴覚障害者の普段の生活を取材した映画などを制作している。

今回取り上げたのは、宮城県岩沼市で理髪店を営む斎光男さん(77)、直子さん(70)夫婦と同県亘理町の加藤襲男(えなお)さん(73)、同町の菊地信子さん(79)、仙台市の県ろうあ協会長小泉正寿(しょうじゅ)さん(68)。

今村さんは震災直後、被災した高齢のろう者を訪ね、被災地のろう者が抱える問題や苦労を伝えるドキュメンタリー映画「架け橋きこえなかった3・11」(74分)を制作した。今回は2014～18年のろう者の生活ぶりや、ろう者ならではの苦労などを約12分間の映像にまとめた。

斎さん夫婦は店が津波で被害を受けたが、同業者らの支援で再開。今村さんの取材に対して、笑みを浮かべて、手話で常連客について伝える姿が印象的だ。加藤さんは約3年前、仮設住宅から公営住宅に移った。住民の触れ合いが少ない公営住宅で精神的に不安定となったが、住民交流の場ができて明るさを取り戻しつつある。

菊地さんは同県岩沼市から亘理町に住む娘さんの隣に移住。手作りのキーホルダーを近所に配って、喜ばれるなど新居での生活を楽しんでいる。小泉さんは震災時、聴覚障害者宮城本部の対策本部長として、支援活動をしたが、過労で体を壊した。リハビリに努め、現在は協会長に復帰して手話普及活動にいそしむ。

震災後、ほぼ毎年被災地を訪れて高齢のろう者を見守ってきた今村さんは「同じろう者として、これからも被災地のろう者との縁を大切にして、現状を伝えていきたい」と語る。

豊川市小坂井生涯学習会館(11日午前10時～、参加費500円)での上映会は席にまだ余裕がある。名古屋市でも上映会があるが、定員に達している。上映後、今村さんが被災地の状況を報告する。